

【平成28年度 第1回提出】業務棚卸評価シート

1 事業の概要と実績

No.	7			シート作成者	-	-	
事務事業名	子ども事業	事務区分	自治事務	部課かい名	教育推進部 鶴嶺公民館		
事業の目的	公民館利用団体等の協力を受け、子どもや親子を対象とした体験学習を実施し、子どもと大人の交流を促進する。	事業の目標		子どもや親子をテーマとした事業を開催して、友達や家族とのふれあいの場を提供する。			
事業の概要	週末や放課後を中心に子どもの居場所づくりのためにスポーツ、工作、遊びなど様々な事業を計画・実施する。また、異年齢集団や親子での様々な体験的な学習機会を提供する。						
対象	公民館自主事業事業参加者		事業の性質区分	定例・定型		業務計画	■
指標	開催事業数(年間)						
27年度(第2次実施計画)		28年度(第3次実施計画)		29年度(第3次実施計画)		30年度(第3次実施計画)	
目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
12事業	7事業	10事業		10事業		10事業	
		27年度	28年度	29年度	30年度	※金額については1円単位で記入してください	
事業費	実施計画事業費	—	187,000	154,000	137,000		
	予算額	342,000	180,000				
	決算額	251,000					
	執行率	73.4%					
	従事者数	0.78	0.51				
	職員	0.23	0.05				
	臨時・非常勤等	0.55	0.46				
財源内訳	特定財源	国庫支出金					
		県支出金					
		地方債					
		その他					
		一般財源	251,000	180,000			

2 事業実施状況に対する評価

事業の必要性	
公民館では幅広い世代をターゲットとして、こども事業、社会的要請課題をテーマとした事業、地域交流事業、公民館ふれあい事業、学習成果の還元事業、家庭教育支援関連事業、次世代育成ネットワーク事業、公民館ふれあい事業の8つのカテゴリで主催事業を展開している。主催事業の講座内容に応じては、きめ細やかに、より深く展開する手法として所管課と調整することにより、今後は地域の学習の場、交流の場、仲間づくりの場の事業として、継続的に実施していくことも必要である。	
事業実施状況に対する分析(課題の抽出)	
事業成果	事業の実施内容の見直しを行い、子ども事業からより関連性の深い事務事業に変更を行った。そのため、事業数の総計では目標値を満たしているが、こども事業としての実績値は目標値を下回る結果となった。 より効果的な事業を実施するため、講座内容の組み立て、周知方法など公民館の手法や公民館を活用した事業展開について、各課かいに広く伝えきれていないことが課題である。
事務効率	実施する主催事業の講座内容に応じ、事業に関連する所管課と連携や調整不足によって、しっかりとした効果につながらない場合がある。
事業成果及び事務効率に対する評価	
実施手法は効率的かつ効果的であり、成果があがった	

3 今後の事業展開(事務改善)

今後の事業展開(事務改善)	
改善の方向性	27年度の評価を踏まえた28年度以降の取組内容
事業(活動)の成果を高める	庁内各課では、専門的な講座や説明会を主に本庁舎を中心に開催しているため、必ずしも全域的な広がりや幅広い層への浸透にはつながっていない。そのため、地域とのつながりが深く、事業の開催についてのノウハウがある公民館を活用する良さを全庁的に周知し、お互いが持っている事業や情報をうまく引出し、組み合わせることにより、主管課が持っている専門性と公民館の事業実施スタイルとマッチングさせて、効果的な事業を実施する。

4 事業を構成する活動に係る改善内容

[illegible][illegible][illegible][illegible]